

資料編

参考文献一覧

第1章第1節

- 建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所, 1997: 立山砂防七十年のあゆみ
- 国土交通省神通川水系砂防事務所, 2006: 神通砂防管内 土砂災害の歴史, 日本工営編
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター編, 2007: 20万分の1日本シームレス地質図データベース, 2007年5月12日版, 産業技術総合研究所研究情報公開データベースDB084, 産業技術総合研究所地質調査総合センター
承認番号: 産総研 第63500-A-20090326-001号
- 嶋本隆一, 1999: 企画展図録「立山に産する玉滴石」, 立山カルデラ砂防博物館, p. 26 - 27
- 立山カルデラ砂防博物館, 2008: 特別展「大崩壊地立山カルデラと砂防施設群」
- 富山県, 1994: 立山カルデラ自然環境基礎調査報告書
- 長井真隆, 1994: とやま植物誌, シーエーピー
- 廣瀬 誠, 1984: 立山黒部奥山の歴史と伝承, 桂書房

第1章第2節、第3節、第4節、第5節

- 安藤雅孝, 1998: 活断層帯での地殻活動研究 (地震フロンティア研究) 概要, 月刊地球, 20, p. 127-132
- Ando, M. edit., 2007: 'Geodynamics of Atotsugawa Fault System', TERRAPUB, Tokyo, 186p.
- 跡津川断層発掘調査団, 1983: 跡津川断層におけるトレンチ掘削調査 (速報), 月刊地球, 5, p. 335-340
- 跡津川断層発掘調査団, 1986: 1982年跡津川断層 (野首地区) トレンチ調査. 活断層研究, 5, p. 59-64
- 跡津川断層トレンチ発掘調査団, 1990: 跡津川断層のトレンチ調査地点でみられた小構造, 活断層研究, 8, p. 23-29
- 跡津川断層トレンチ発掘調査団・岡田篤正・竹内 章・佃 為成・池田安隆・渡辺満久・平野信一・升本真二・竹花康夫・奥村晃史・神嶋利夫・小林武彦・安藤雅孝, 1989: 岐阜県宮川村野首における跡津川断層のトレンチ発掘調査、地学雑誌, 98, p. 440-463
- 粟田泰夫・佃 栄吉, 1993: 最近1万年における跡津川断層の活動, 日本地震学会講演予稿集, 2, p. 199-199
- Iio, Y., Sagiya, T., Kobayashi, Y. and Shiozaki, I., 2002: Water-weakened lower crust and its role in the concentrated deformation in the Japanese Islands, Earth and Planetary Science Letters, 203, 1, p. 245-253
- 伊藤 潔・和田博夫・和田一成, 1998: 地震活動で断層の動きを追う, 月刊地球, 20, p. 136-141
- 伊藤 潔, 2008: 地震発生層の深さ分布と活断層のセグメンテーションとの関係. 京都大学防災研究所年報, 第49号B, 227-238
- 岩崎貴哉, 2008: 歪み集中帯と内陸地震の発生について, 気象防災講演会, 平成20年1月16日富山県民共生センター, 富山県・消防科学総合センター・富山地方気象台,
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/koho/press/goudou2004/index.html>
- 岩崎貴哉, 2008: 歪み集中帯と内陸地震の発生について. 平成19年度防災気象講演会 (富山) 配布資料, 富山県民共生センター [サンフォルテ] 2008年01月16日
- 宇佐美龍夫, 1975: 資料日本被害地震総覧, 東京大学出版会, 東京, 327p.
- 宇佐美龍夫, 1975: 江戸時代末までの群生地震の表, 東京大学地震研究所彙報, 50, 1, p. 1-46
- 宇佐美龍夫・東京大学資料編纂所・京都大学上宝地殻変動観測所, 1979: 飛越地震 (安政5年2月26日) と跡津川断層, 地震予知連絡会会報, 21, p. 115-119

- 宇佐美龍夫, 1985 : 飛越地震と大町地震, 地震予知連絡会会報, 33, p. 76-79
- 宇佐美龍夫, 1987 : 新編日本被害地震総覧, 東京大学出版会, 東京, 435p.
- 宇佐美龍夫, 1994 : わが国の歴史地震の震度分布・等震度線図, 日本電気協会, 東京, 647p.
- 宇佐美龍夫, 1996 : 新編日本被害地震総覧 [増補改訂版], 東京大学出版会, 東京, 493p.
- 宇佐美龍夫, 2003 : 最新版日本被害地震総覧 [416]-2001, 東京大学出版会, 東京, 605p.
- 大志万ほか, 2005 : 歪集中帯周辺 (跡津川断層) での広帯域MT観測による深部比抵抗構造 (序報), 京都大学防災研年報, 48B, p. 125-132
- Kato, A., Iidaka, T., Kurashimo, E., Nakagawa, S., Hirata, N and Iwasaki, T., 2007 : Delineation of probable asperities on the Atotsugawa fault, central Japan, using a dense temporary seismic network, *Geophysical Research Letters*, 34, 9, L09318.1-L09318.5
- Kato, A., T. Iidaka, E. Kurashimo, S. Nakagawa, N. Hirata, and T. Iwasaki, 2007 : Delineation of probable asperities on the Atotsugawa fault, central Japan, using a dense temporary seismic network. *Geophys. Res. Lett.*, 34, L09318, doi:10.1029/2007GL029604. 挿入
- 活断層研究会編, 1980 : 「日本の活断層—分布図と資料—」, 東京大学出版会, 363p.
- 活断層研究会編, 1991 : 新編日本の活断層—分布図と資料—, 東京大学出版会, 448p.
- 河合正虎・野沢 保, 1958 : 五万分の一地質図幅「東茂住」および同説明書, 地質調査所, p. 1-76
- 熊木洋太, 1983 : 跡津川断層周辺の活断層に関する二、三の知見, 月刊地球, 5, p. 549-552
- 建設省立山砂防, 1979 : SABO
- 小林武彦・羽田野誠一, 1989 : 立山火山第4期の水蒸気爆発と活断層の関係 (演旨), 日本火山学会講演予稿集, 1989, 2, p. 116-116
- 小林武彦・藤本泰史, 1994 : 立山火山五色ヶ原周辺の地質といわゆる「立山カルデラ」の成因 (演旨), 日本火山学会講演予稿集, 1994, 2, p. 171-171
- 岐阜県, 2004 : 岐阜県地域防災計画地震対策編, <http://www.bousai.pref.gifu.lg.jp/GDIS/sysservlet>
- 産業技術総合研究所地質調査総合センター編, 2007 : 20万分の1日本シームレス地質図データベース 2007年5月12日版, 産業技術総合研究所研究情報公開データベースDB084, 産業技術総合研究所地質調査総合センター
- Sagiya, T., Miyazaki, S. and Tada, T., 2000 : Continuous GPS Array and Present-day Crustal Deformation of Japan, *Pure and Applied Geophysics*, 157, 11/12, p. 2303-2322.
- 多田 堯, 1991 : 跡津川断層のクリープ変動, 地球惑星科学関連学会1991年合同大会予稿集, p. 253-253
- 多田 堯, 1998 : 跡津川断層における地殻変動, 月刊地球, 20, p. 142-148
- Takeuchi, A., H., Ongirad and A., Takebe, 2003 : Recurrence interval of large earthquakes along the Atotsugawa fault system, central Japan—Results of Seismo-geological survey, *Geophys. Res. Lett.*, 30, MOZ2, p. 1-4
- Takeuchi, A., Takebe, A., Hasibateer, O and Doke, R., 2007 : Seismogeology of the Atotsugawa strike-slip fault system in the Hida Mountains, central Japan with the special reference to the investigation gallery across the branch Mozumi-Sukenobe Fault. In '*Geodynamics of Atotsugawa Fault System*', M. Ando ed., TERRAPUB, Tokyo, p. 1-10.
- 地震調査委員会, 1994 : 跡津川断層帯の長期評価について, 地震調査研究推進本部 (平成16年9月8日), 活断層の長期評価<地震に関する評価, http://www.jishin.go.jp/main/p_hyoka02_danso.htm
- 辻村太郎, 1943 : 薬師登山記, 地理学, 11, p. 1-18
- 道家涼介・竹内 章 : 岐阜県飛騨市神岡町佐古における断層露頭と跡津川断層東部の最新活動, 第四紀研究 (投稿中)
- 東郷正美・岡田篤正, 1983 : 断層変位からみた跡津川断層, 月刊地球, 5, p. 359-366
- 富山県, 2006 : 富山県地域防災計画 (震災編), 富山, p. 256
- Nakajima, J., and Hasegawa, A., 2007 : Deep crustal structure along the Niigata-Kobe Tectonic Zone, Japan: Its origin and segmentation, *Earth, Planets and Space*, 59, 12, e5-e8
- 中田 高・今泉俊文編, 2002 : 「活断層詳細デジタルマップ」, 東京大学出版会, DVD-ROM 2枚, 60p. 付図1葉
- 日本地質学会編, 2006 : 中部地方 (日本地方地質誌4), 朝倉書店, 588p.

- 野沢 保・河田清夫・河合正虎, 1975: 飛騨古川地域の地質 (5 万分の 1 地質図幅), 地域地質研究報告, 地質調査所, p. 1-68
- 野沢 保, 1978: 跡津川断層最近の話題から, 地質ニュース, no. 283, 1, p. 28-36
- 野沢 保・坂本 亨・加納 隆・稲月恒夫, 1981: 白木峰地域の地質, 地質調査所, p. 1-85
- 野村誠紀ほか, 2002:
- ハスパートル・竹内 章・迫垣内 薫・武部晃充・伊藤谷生・新見 健・木下博久・野原壯, 2000: 跡津川断層系・茂住 祐延断層の活動性, 月間地球, 号外, 28, p. 113-118
- 原山 智・高橋 浩・中野 俊・荻谷愛彦・駒沢正夫, 2001: 5 万分の 1 地質図幅「立山」及び説明書 (地域地質研究報告), 地質調査総合センター
- Hirahara, K., Ohzono, M., Sagiya, T., Hosoi, Y., Wada, Y and Ando, M., 2007: Dense GPS Array Observations across the Atotsugawa Fault System in Central Japan, *Geodynamics of Atotsugawa Fault System*, p. 25-44, TERRAPUB
- 藤井昭二・竹村利夫, 1979a: 富山県とその周辺の活断層, 富山県地震対策基礎調査報告書, p. 39-72
- 藤井昭二・竹村利夫, 1979b: 富山堆積盆地とその周辺の活断層, 日本地理学会予稿集, 17, p. 62-63
- 前田四郎・武南 馨, 1957: 富山県南部の手取層群の層序と構造, 地質学雑誌, 63, p. 273-288
- 松田時彦, 1966: 跡津川断層の横ずれ変位, 地震研彙報, 44, p. 1179-1212
- 松田時彦, 1990: 最大地震規模による日本列島の地震分帯図, 地震研究所彙報, 65, p. 289-319
- 三雲 健・和田博夫, 1983: 跡津川断層と地震活動, 月刊地球, 5, p. 325-334
- 村田 柝, 1912: 跡津の大断層, 地質学雑誌, 21, p. 206-208
- 吉村令慧・大志万直人・藤浩 明・山本宜峰・本林 勉・和田安男・畑 真紀・兼崎弘憲・上嶋 誠, 2006: 跡津川断層 沿いでの広帯域MT観測 (序報), CA 論文集, p. 67-70
- Yoshimura, R., M. Uyeshima, N. Oshiman, H. Toh, Y. Ogawa, T. Ogawa, S. Yamaguchi and Research group for crustal resistivity structure in the Niigata-Kobe Tectonic Zone, 2007: Crustal heterogeneities deduced from wideband and Network MT measurements around the Niigata-Kobe Tectonic Zone, Chubu District, Japan, *Eos Trans. AGU*, 88(52), Fall Meet. Suppl., Abstract S31A-0196.
- 和田博夫・伊藤 潔, 1994: 跡津川断層付近の地震活動, 日本地震学会講演予稿集, 2, p. 151
- 和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲雄・小泉 誠, 2002: 飛騨地域における地震活動の線状配列, 京大防災研年報, No. 45 B, p. 555-560
- 和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲雄, 2003: 飛騨地域周辺の極微小地震活動. 京大防災研年報, No. 46 B, p. 671-680
- 和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲雄, 2007: 上宝観測所における跡津川断層周辺における稠密地震観測—36年間 の観測と解析結果, 京大防災研年報, No. 50 B, p. 313-320

第 2 章 第 1 節、第 3 節

- 伊藤和明, 2002: 地震と噴火の日本史, 岩波書店, p. 142-154
- 宇佐美龍夫, 1994: わが国の歴史地震の震度分布・等震線図, (社) 日本電気協会, 647p.
- 宇佐美龍夫, 1996: 新編日本被害地震総覧増補改訂版416—1995, 東京大学出版会, p. 187-191
- 裏野哲行, 2004: 「越中立山大鷲崩れ」を探る—記録、古絵図との対話を通して, SEISMO 12月号, (財) 地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター, p. 10-11
- 大山町史編纂委員会編, 1964: 大山町史, 大山町, p. 818-833
- 岐阜県編, 1998: 安政地震, 特集と年表でつづるひだみの災害 岐阜県災害史, 岐阜新聞社, p. 74-77
- 岐阜県歴史資料館編, 2008: 飛騨・美濃の古地図と史料—飛騨郡代高山陣屋文書・美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書, (財) 岐阜県教育文化財団歴史資料館
- 國香正稔・伊藤和明, 2003: 飛越地震, ドキュメント災害史1703—2003—地震・噴火・津波、そして復興, 国立歴史民俗博物館, p. 35-39
- 坂井誠一, 1974: 富山藩, 巧玄出版

- 嶋本隆一・飯田 肇, 2000: 大鷲崩れに関わる災害絵図作製に関する一考察, 立山カルデラ砂防博物館研究紀要第1号, 立山カルデラ砂防博物館, p. 17-26
- 高瀬 保, 1964: 古文書から見た放生津潟の変遷と射水平野の形成, 放生津潟の地学的研究, I, p. 45-96
- 高野靖彦, 2006: 常願寺川水系としての東岩瀬-安政五年の大災害とその関わり, 東岩瀬郷土史学会会報100号, 東岩瀬郷土史会, p. 1-12
- 田川捷一, 1995: 加能越近世史研究必携, 北国新聞社
- 立山カルデラ砂防博物館編, 1998: 越中立山大鷲崩れ-安政五年大地震大洪水の古絵図集成, 立山カルデラ砂防博物館
- 立山町編, 1984: 立山町史下巻 第二章近世農村生活の展開, 立山町, p. 321-428
- 東京大学地震研究所編, 1995: 新収日本地震史料 第五巻別巻四, 東京大学地震研究所
- 富山市史編さん委員会編, 1987: 富山市史 通史上巻 近世編第三章, 富山市, p. 964-974
- 富山市郷土博物館編, 1999: 特別展地震・大水・火事-富山, 富山市教育委員会
- 富山市柳町郷土史編集委員会編, 1996: 富山柳町のれきし, 富山市柳町郷土史刊行委員会, p. 105-113
- 富山県郷土史会校注, 1976: 越中安政大地震見聞録-立山大鷲崩れの記, K N B 興産出版事業部
- 富山県編, 1983: 富山県史 通史編IV近世下, 富山県, p. 897-903
- 富山県編, 1978: 富山県史 史料編IV近世中, 富山県, p. 1064-1080
- 富山県立山博物館編, 1994: 地震を視る-古記録からCGまで, 富山県立山博物館
- 富山県立図書館編, 1980: 富山県立図書館所蔵古絵図解説目録, 富山県立図書館
- 廣瀬 誠, 2000: 地震の記憶-安政五年大震大水災記, 桂書房, p. 260
- 廣瀬 誠, 2003: 神通川と呉羽丘陵ふるさとの風土, 桂書房, p. 138-143
- 藤井環境地質研究所, 1996: 古地震被害調査報告書 (その一) 215p.
- 藤井環境地質研究所, 1997: 古地震被害調査報告書 (その二) 113p. 付図1葉
- 藤井昭二, 1962: 表層地質5万分の1富山図幅とその説明書 (富山県), p. 42
- 藤井昭二, 1966: 富山平野の“沖積層” “日本海地域の地学的諸問題”, p. 91-202
- 藤井昭二, 1972: 海岸平野の幾つかの問題, 地質学論集7, p. 189-196
- 藤井昭二, 1972: 富山市内で発生した建築に伴う2つの液状化現象, *Proceedings of the Fourth Symposium on Geo-Environment and Geo-Technics*, p. 131-136
- 藤井昭二・青木滋, 1972: 富山県新湊市堀岡小学校の地盤沈下地盤と地下水に関する公害, p. 1-9
- 藤井昭二・高瀬保・広瀬誠・吉田清三, 1996: 富山平野古地震による液状化の研究, *Proceedings of the Sixth Symposium on Geo-Environment and Geo-Technics*, p. 41-44
- 藤井昭二・吉田清三・廣瀬 誠・高瀬 保, 1996: 古地震被害調査研究報告 (その1), 藤井環境地質研究所
- 藤井昭二・吉田清三・廣瀬 誠・保科斎彦, 1997: 古地震被害調査研究報告 (その2), 藤井環境地質研究所
- 藤井昭二, 2000: 大地の記憶, 桂書房, p. 197
- 藤田佳一, 2006: 飛騨郡代高山陣屋文書における『飛越地震に関わる史料』の紹介, 岐阜県歴史資料館館報第29号, (財)岐阜県教育文化財団歴史資料館, p. 59-84
- 細入村史編纂委員会編, 1987: 細入村史 通史編 (上巻), 細入村, p. 269-271
- 細入村史編纂委員会編, 1989: 細入村史 史料編 (下巻), 細入村, p. 164-178
- 前田一郎, 2006: 安政の大災害関係史料 (一), 立山カルデラ砂防博物館研究紀要第7号, 立山カルデラ砂防博物館, p. 1-37
- 前田一郎, 2007: 安政の大災害関係史料 (二), 立山カルデラ砂防博物館研究紀要第8号, 立山カルデラ砂防博物館, p. 1-33
- 宮本幸江, 1990: 郷土の災害・安政の大地震と洪水, 大山の歴史, 大山町, p. 308-319

第2章第2節

- 跡津川断層トレンチ発掘調査団, 1989: 岐阜県宮川村野首における跡津川断層のトレンチ発掘調査地学雑誌, 98巻, p. 62-85
- 石川芳治・井良沢道也・匡尚富, 1992: 天然ダムの決壊による洪水流下の予測と対策, 新砂防, 45巻1号, p. 14-23
- 井上公夫, 1993: 地形発達史からみた大規模土砂移動に関する研究, 京都大学農学部学位論文, 235p.
- 井上公夫, 1998: 北陸地方における地震などに起因した大規模土砂移動の事例紹介, 北陸の建設技術, p. 24-28
- 井上公夫, 2006: 1858年の常願寺川・鳶崩れと天然ダム決壊, 建設技術者のための土砂災害の地形判読実例問題中・上級編, 古今書院, p. 67-72
- 井上公夫・水山高久・大内俊二, 1986: 常願寺川上流部の大規模崩壊（鳶崩れ）とその後の河床変動について, 昭和61年度砂防学会研究発表会講演集, p. 12-15
- 井上公夫・南 哲行・安江朝光, 1987: 天然ダムによる被災事例の収集と統計的分析, 昭和62年度砂防学会研究発表会講演集, p. 238-241
- 井上公夫・今村隆正, 1998: 中部地方の歴史地震と土砂災害, 一主に天正地震（1586）と濃尾地震（1891）時に発生した大規模土砂移動について一, 歴史地震, 14号, p. 37-48
- 宇佐美龍夫, 1996: 新編日本被害地震総覧「増補改訂版416-1995」, 493p.
- 大石道夫, 1985: 目でみる山地防災のための微地形判読, 鹿島出版会, 267p.
- 大内俊二, 1979: 扇状地面と現河床の間の微地形及び粒径分布の差異について, 地理評, 52巻, p. 190-198
- Ouchi, S. and Mizuyama, T., 1989: Volume and Movement of Tombi Landslide in 1858, Japan., 地形, 10巻1号, p. 27-51
- 奥村晃史, 1996: 富山県真川上流部における跡津川断層の露頭と真川湖成層, (CB-28), 跡津川断層・岐阜県宮川村野首地区トレンチ発掘調査, (CB-34), 第四紀露頭集—日本のテフラ, 日本第四紀学会, 352p.
- 大八木則夫, 1986: 斜面災害の履歴, p. 1-28, 高橋博大八木則夫・大滝俊夫・安江朝光編纂「斜面災害の予知と防災」, 白亜書房, 526p.
- 片川秀基・穴田文浩・吉田 進・伊藤 孝, 2002: 跡津川断層東端付近の最近活動時期について, 第四紀研究, 41巻2号, p. 73-83
- 活断層研究会, 1991: 新編日本の活断層—分布図と資料, 東京大学出版会, 437p.
- 河合村誌編さん委員会, 1990: 飛騨河合村誌通史編, 1225p.
- Chorley, R. J., Schumm, S. A. and Sugden, D. E., 1984: Geomorphology, 大内俊二訳（1995）: 現代地形学, 古今書院, 692p.
- 建設省河川局砂防部, 1995: 地震と土砂災害, (財)砂防・地すべり技術センター, 61p.
- 建設省神通川砂防工事事務所, 1985: 奥飛騨の砂防, 建設省神通川砂防工事事務所30周年記念誌, 135p.
- 建設省神通川砂防工事事務所, 2000: 奥飛騨の砂防, 一八十年に学ぶ一, 453p.
- 建設省神通川砂防工事事務所, 2001a~h: 奥飛騨の砂防, 一八十年に学ぶ一, 資料編, (1)~(8)
- 建設省立山砂防工事事務所年表編集委員会, 1977: 常願寺川の歴史を尋ねて, 本文, 109p., 写真集, 48p.
- 建設省北陸地方整備局・富山県・石川県・岐阜県, 1981: 水害写真集『濁流の記録』, 231p.
- 建設省中部地方建設局, 1987: 天然ダムによる被災事例調査, 事例資料の統計的分析, 119p.
- 建設省土木研究所, 1984: 扇状地発達課程の砂防工学的検討業務委託報告書, 日本工営株式会社, 32p.
- 建設省土木研究所, 1985: 常願寺川上流部鳶崩れ後の土砂流出と河床変動追跡調査業務委託報告書, 日本工営株式会社, 36p.
- 建設省土木研究所, 1987: 鳶崩れ崩壊土砂の運動に関する調査業務委託報告書, 日本工営株式会社, 56p.
- 国土交通省神通川砂防事務所, 2004: 写真でたどる奥飛騨の砂防, 107p.
- 国土交通省神通川砂防事務所, 2006: 神通砂防管内の土砂災害の歴史, p. 73
- 柴田秀賢・豊沢弘正, 1957: 立山火山付近の地質と岩石, 一日本アルプスの地質と岩石（その1）一, 地質学雑誌, 63巻746号, p. 609-618

- Schuster, R.T. and Costa, J.E., 1989 : A Perspective on Landslide Dams. Landslide Dams, ed. by Schuster, R. T., ASCE, 164p.
- 竹内 章・和田博夫・三雲 健・神嶋俊夫・酒井英男, 1990 : 跡津川断層縦走, 地質学会, 第97年年会見学案内書, p. 85-110
- 立山町, 1984 : 立山町史, 上下巻, 1868p.
- 立山カルデラ砂防博物館, 1998 : 越中立山大鳶崩れ, 一古絵図が語る安政の大災害一, 安政五年大地震大洪水の古絵図集成, 95p.
- 田畑茂清・水山高久・井上公夫・杉山 実, 2000 : 鳶崩れ (飛越地震, 1858) による天然ダムの形成と決壊に伴う土砂災害の実態, 砂防学会誌, 53巻1号, p. 59-70
- 東京大学地震研究所, 1986 : 新収日本地震史料, 第五巻別巻四, 667p.
- 富永正義, 1935 : 常願寺川改修計画に就て, 土木学会誌, 22号, p. 729-762
- 富山県郷土史会, 1976 : 越中安政大地震見聞録, 一立山大鳶崩れの記一, KNB興産株式会社, 231p.
- 富山県・立山博物館, 1993 : 地震を視る, 一古記録からCGまで一, 55p.
- 深井三郎, 1956a : 立山山麓の隆起扇状地, 地理評, 29巻, p. 218-231
- 深井三郎, 1956b : 常願寺川上流域の地形発達史, 地理評, 29巻, p. 428-439
- 廣瀬 誠, 2000 : 地震の記憶, 一安政五年大震大水災記一, 260p.
- 細入村, 1987 : 細入村史, 通史編, 上巻
- 町田 洋, 1962 : 荒廃河川における侵食過程一常願寺川の場合一, 地理評, 35巻, p. 157-174
- 町田 洋, 1967 : 荒廃山地における崩壊の規模と反復性についての一考察, 水利科学, 55号, p. 31-53
- 町田 洋, 1984 : 巨大崩壊, 岩屑流と河床変動, 地形, 5巻, p. 155-178
- 町田 洋, 1986 : 立山の鳶崩れ, 日本の自然8, 自然の猛威 (町田洋・小島圭二編), 岩波書店, p. 102-111
- 水山高久・井上公夫・大内俊二, 1985 : 砂防・河川工事が扇状地河道に与えた影響の評価 (常願寺川), 昭和60年度砂防学会研究発表会講演集, p. 112-113
- 水山高久・大内俊二・井上公夫, 1987 : 鳶崩れの規模と崩壊土砂の運動, 昭和62年度砂防学会研究発表会講演集, p. 102-103
- Mizuyama T., Tabata S., Mori., Watanabe F. and Inoue K., 2004 : Outbursts of Landslide Dams and Their Prevention, Interpreavent 2004 -Riva/ Trient, IV : Landslide, p. 221-229
- 宮川村誌編纂委員会, 1981 : 宮川村誌, 通史編, 上, 下
- 山田淳夫・竹内 章, 1983 : 跡津川断層東端の断層露頭, 月刊地球, 5巻, p. 399-40
- 鷲尾塾龍, 1951 : 荒廃河川処理の一例としての常願寺川改修計画, 新砂防, 6巻, p. 1-59

第3章第1節、第2節、第3節、第4節、第5節、第6節

- 岡村利平, 1921 : 飛騨編年史要, 全
- 各務義章, 1994 : 史跡高山陣屋図録, 教育出版文化協会
- 神岡町編, 1976 : 神岡町史史料編下巻, 神岡町, 口絵 p. 1152-1159
- 河合村編, 1990 : 河合村誌通史編全, 河合村, p. 693-699
- 河合村編, 1980 : 河合村誌史料編上巻, 河合村
- 河合村編, 1983 : 河合村誌史料編下巻, 河合村
- 北原糸子編, 2006 : 日本災害史, 吉川弘文館
- 岐阜県編, 1968 : 通史編近代上, 岐阜県, p. 267-271
- 岐阜県歴史資料館, 2008 : 飛騨・美濃の古地図と史料一飛騨郡代高山陣屋文書・美濃郡代笠松陣屋堤方役所文書一, (財) 岐阜県教育文化財団歴史資料館
- 岐阜新聞社編, 1998 : 岐阜県災害史～特集と年表でつづるひだみの災害, 岐阜新聞社, p. 74-77
- 杉村利一, 1997 : 水橋乃歴史一安政乃大洪水と西水橋乃被害一
- 高山市編, 1981 : 高山市史下巻 (復刻版), 高山市, p. 685-692
- 田川捷一, 1995 : 加越能近世史研究必携, 北国新聞社

立山カルデラ砂防博物館編, 1998: 越中立山大鷲崩れ—安政五年大地震大洪水の古絵図集成, 立山カルデラ砂防博物館
東京大学地震研究所編, 1955: 新収日本地震史料, 第五巻別巻四, 東京大学地震研究所
富山県編, 1978: 富山県史 史料編IV近世中, 富山県
廣瀬 誠, 1976: 解題 安政大地震とその文献, 越中安政大地震見聞録, K N B 興産出版事業部
藤田佳一, 2006: 飛騨郡代高山陣屋文書における「飛越地震に関わる史料」紹介, 岐阜県歴史資料館報第29号, (財)
岐阜県教育文化財団歴史資料館, p. 59-84
三井金属鉱業株式会社修史委員会編, 1970: 神岡鉱山史, 三井金属鉱業株式会社
宮川村編, 1981: 宮川村誌通史編下, 宮川村, p. 567-594

第4章第1節～第7節

「有峰と常願寺川」編集委員会, 1981: 有峰と常願寺川 人と水の歴史, 北陸電力株式会社
大内俊二, 1979: 扇状地と現河床の間の微地形及び粒径分布の差異について, 地理評, 10巻1号, p. 27-51
金子盤蝸稿・榊原守郁撰・正橋剛二解説校注, 1995: 立山遊記・立嶽登臨記 桂書房, p. 18
建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所, 1981: 常願寺川直轄砂防への道 (非売品), 建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所
建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所, 1985: 多知夜麻 立山砂防60年の歩み (非売品), 社団法人北陸建設弘済会
建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所, 1994: 常願寺川の上流をたずねて, 建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所
建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所, 1997: 立山砂防70年のあゆみ (非売品), 建設省北陸地方建設局立山砂防工事事務所
建設省北陸地方建設局富山工事事務所, 1962: 常願寺川沿革史, 建設省北陸地方建設局富山工事事務所
建設省北陸地方建設局富山工事事務所, 1979: 常願寺川の急流河川工法, 建設省北陸地方建設局富山工事事務所
建設省北陸地方建設局富山工事事務所, 1996: 富山工事事務所60年史, 建設省北陸地方建設局富山工事事務所
国土開発調査会, 2006: 河川便覧 (平成18年版), 国土開発調査会, p. 82-83
国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所, 2005: 本宮砂防えん堤—登録有形文化財— (非売品), 国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所
国土交通省北陸地方整備局北陸地方整備局, 2007: 砂防事業の再評価説明資料 (常願寺川直轄砂防事業)
社団法人全国治水砂防協会, 2001: 日本の砂防～安全で緑豊かな地域づくりをめざして～, 社団法人全国治水砂防協会
社団法人全国治水砂防協会, 2008: 砂防便覧 (平成20年版), 社団法人全国治水砂防協会, p. 17
田畑茂清・水山高久・井上公夫, 2002: 天然ダムと災害, 古今書院, p. 177-178, 184
富山県土木部砂防課, 2003: 護天涯一とやまの砂防一, 富山県土木部砂防課
水山高久・井上公夫・大内俊二, 1985: 砂防・河川工事が扇状地河道に与えた影響の評価 (常願寺川), 昭和60年度砂防学会研究発表会講演集, 砂防学会, p. 112-113
鷺尾塾龍, 1951: 荒廃河川処理の一例としての常願寺川改修計画, 砂防学会誌, 第6号, 砂防学会, p. 4-11